

～ All for one, One for all. ～

イザヤ書 第四十六章 四節

わたしはあなたがたの年老
いるまで変らず、白髪とな
るまで、あなたがたを持ち
運ぶ。わたしは造ったゆえ、
必ず負い、持ち運び、かつ
救う。

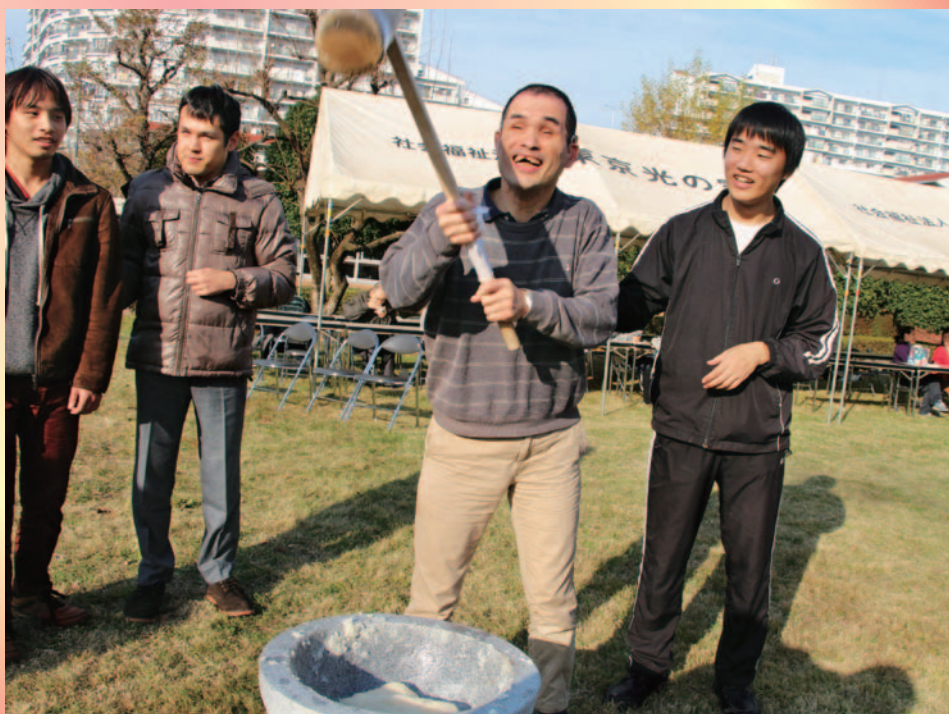
光 の 家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 190 号 —

2017 年 1 月 1 日発行



新しい年に願いを込めて！

謹
賀
新
年

新年あけまして
おめでとうございませう

皆様には佳き新春をお迎え

のことと存じ、心より慶賀申し
上げます。旧年中は当法人の社
会福祉事業に対しまして、格別
なるご支援を賜り、深く感謝
致しております。お陰様で、微
力ながらも与えられた社会的
役割を果たすことが出来ました。

今、社会福祉法人は大きな
変革期を迎えています。私ど
もはこれまで同様、創立の基本
精神を堅く守り、真面目で誠
実な事業を行って、社会の皆様
から信頼され、地域に尽くす団
体でありたいと願っています。

何卒、新しい一年も旧年同様
に相変わらずのご指導・鞭撻を
賜りたく、併せて皆様方のご健
康とご多幸をお祈りし、新年の
ご挨拶とさせていただきます。

平成二九年 元旦

社会福祉法人 東京光の家

役・職員一同

巻頭言

次世代に知恵を引き継ぐ

社会福祉法人東京光の家 評議員 加藤 保武



光の家を退いて既に八年ですが今、私が取り組んでいる障害者就労支援との関連からも光の家支援現場の動向には常に関心を持ってきました。先頃、「盲重複障害を持つ人への支援」(盲重複障害者福祉研究室編 A5 判七〇頁)という研究紀要第一号が関係者にも配られ読む機会を得ました。これは平成二四年度～二七年度までの六篇の実践報告が収められていて言わば現在の光の家の支援現場の動向と水準が読みとれるものだと思います。興味深く読んでみた次第です。

内容は①「楽しく訓練をすること」②「地域移行に向けた取り組みについて」③「作業訓練の実態調査」④「生活訓練の実態調査」⑤「救護施設に於ける利用者状況」⑥「利用者調査」の六篇が報告されています。ここに詳述する余裕はありませんがいずれも光の家の現場職員が日々の業務の中で取り組んできた利用者支援の実践報告であり、「高齢化と重度化」という昔から福祉現場で安易に使われてきた常套句に流されず、地道に取り組んできた労作ばかりで頼もしく共感をもって読みました。

私が特に注目したのは栄光園の②「地域移行に向けた取り組み」で、昭和五四年に始まった通所制度の下でその変遷と通

所移行のための訓練や現在の生活上の課題などを報告されています。これは丁度、この時期に私自身も通所移行の課題に取り組みしたので記憶を甦せられ、このような形で引き継がれていることを嬉しく感じしました。

通所制度が新たに出来るので利用者に希望を募ったところ、半数にも及ぶ人が手を挙げたという当時を語る貴重なエピソードがありました。報告者の T 職員は私が退職後に入ってきた若い女性職員ですが、それを三年以上も経て、古い職員から聞いた結果であるのか、きちんと記述されていたことに元現場職員として感銘を受けました。そしてこれを通して私は重要なことに気づかされました。支援現場における実践の蓄積は日々の日誌に記録し朝礼で報告し共有されますが、明らかにそれだけでは足りず、後々の職員たちにも的確に伝わるような記録こそが不可欠であることを

会報 五言

一、裏もあれば表もある、と言う。これを上手に使い分けするのが賢い生き方だと実しやかに言う…。

二、これがやがて裏には裏がある、これ又、実しやかに言う輩が出てくる。おそろしい事である。

三、正直に生きる事は、馬鹿を見る事だろうか。もしかしら稀にはそんな事があるかも。

四、でも、賢くなくてもいい。知恵が少なくてもいい。それでも大切なのは正直な人生を貫き通すことではないだろうか。

五、やっぱり正直に生きたいもの。自分の子に、人の裏をかくような人生を送れ、とは誰も教えないはず。

(二〇二二年一月一日

一六八号 再掲)

痛感させられたわけです。そしてその記録とはPCで書いた施設内文書のレベルでは長い年月には当然、残っていないので今回のような整った印刷製本されたレベルが必要であることも実感させられたわけです。日々、積み重ねられた支援現場の経験や知恵は現場のノウハウとして数年後に入ってくるであろう若い職員にも役立たせることを意識し、次代に繋いでいくことが本来の知恵の蓄積とも考えます。

以前にも「会報」と「燈心」に書きましたが特に田中亮治理事長、故ノゾミ両先生の時代五〇年に蓄積された膨大な知恵と実践を単に「語り継ぐ」という掛け声だけではいずれ消えていきかねず、出来れば印刷製本される必要性を感じます。

「光の家百年」の節目はもう間もなく迎えるわけですが光の家が新たな第二世紀に向かって蓄積された知恵が結集されることを切に祈る次第です。

第 20 回 手さぐりの作品展開催

- 【日 時】平成 29 年 2 月 21 日(火)～26 日(日)
10:00～19:00(最終日は 17:00 まで) ※今回は休館日はありません
- 【会 場】日野市立とよだ市民ギャラリー(JR 中央線豊田駅北口徒歩 3 分)
日野市多摩平 2-3-4 オリент丹野マンション地下 1 階
☎042-586-1961
- 【問合せ】東京光の家 ☎042-581-2340



今年も来てください!



※ 毎月 1 日はサービスデー、500 円割引

光の家鍼灸 マッサージホーム

真心をこめた施術で、皆さまの健康に奉仕させて頂きます。

受付時間 (電話予約制)
午前 9 時～午後 7 時半
定休日 毎週水曜日

電話
〇四二(五八二)七二〇九

料金

はり	四、〇〇〇円
マッサージ	三〇分 二、五〇〇円
	七〇分 三、八〇〇円
	一〇〇分 五、〇〇〇円

法人役員

代表理事・評議員 田中 亮治
常務理事・評議員 石渡 健太郎
理事・評議員 相澤 忠一

理事・評議員 亀岡 寛治
理事・評議員 篠崎 友昭
理事・評議員 杉山 吉昭
理事・評議員 松本 栄二
理事・評議員 横引 公一

監事 白井 富士夫
顧問 藤田 洋
評議員 杉山 閑男

評議員 安藤 瑠子
評議員 岩島 幸子
評議員 梅田 俊幸
評議員 加藤 保武
評議員 軽部 義和
評議員 川辺 勝宣
評議員 佐川 勉

第九八回

東京光の家クリスマス

主の降誕を祝して

光の家のクリスマスは、光の家創立から続く、最も大切な行事です。創立者秋元梅吉のキリスト教信仰によって生まれた光の家が、創立の精神を継承し、この一年を締めくくる大切な時間です。今年度も、第一部「礼拝」、第二部「祝会」、第三部「会食」として二月二五日本曜日に行われました。今年度の記念講話は、日曜聖書集会で講師をされている仲田達男先生に「いと高き所にホサナ」と題するお話をいただきました。イエスをユダヤの王として迎える言葉「いと高き所にホサナ」について、当時の時代背景やエルサレムの様子を説明され、人々が熱狂し待ち望んだ王を迎えるように、この光の家に「ホサナ」と歓び迎えて、お互いに過ごしたいとご講話されました。

第二部「祝会」の開会は、聖

歌隊三六名による心のこもった温かな歌声と手拍子が響き渡りました。光の家新生園による演劇は「ルツの物語」。旧約聖書を忠実に再現した劇は、演劇クラブの部員が中心となり新生園らしく若々しい劇となりました。副音声を取り入れた演出は、視覚障害の方にもわかりやすく大変好評でした。

第三部は「会食」。「シーフード豆乳ソースかけピラフ」「カプレーゼ」毎年恒例のデザート「カンナからの贈り物」等、食事課で手作りされた美味しい食事をいただきながら皆で主の降誕をお祝いしました。

神様の祝福に包まれて、一年を締めくくる心温まるクリスマスとなりました。

(クリスマス委員長 手島 康光)



第二部「祝会」：ルツの物語劇



第一部「礼拝」：仲田達男先生



第三部「会食」：クリスマスディナー



第二部「祝会」：聖歌隊

秋の外出行事



「外出行事の秋」がやってきま

した。普段できないような体験をしたり、ゆつくりと買い物や美味しい食事を楽しんだり、利用者の皆さんが存分に満足できるよう、さまざまな工夫を凝らした外出行事を各施設共に、二月に行いました。

●**新生園**では、社会見学を行いました。行き先は森永乳業工場見学（東大和市）・消防博物館（新



歌舞伎ポーズで決めてみました！（新生園）

宿区四谷）・歌舞伎座ギャラリー（銀座）・国立科学博物館（上野）の四か所で、それぞれ利用者の希望する場所に行き、様々な体験をすることができました。

●**神愛園**では、利用者の希望や体力面等を考えたグループを作つて外出を計画しました。市内のレストラン・回転寿司で食を堪能する組、日の出イオンモールまで行つて買い物をする組、近くの温泉でのんびりする組、高尾山に登つて秋の香りを楽しむ組等、さまざまなグループに分かれて実施しました。



高尾山ハイキングを楽しみました！（神愛園）

●**栄光園**は、カラオケコース、新宿コース、日の出イオンモールのコース、立川コースの四コースに分かれ、外出を楽しみました。今回も希望者のみの参加でしたが、少し遠出をして、普段とは違う買い物やカラオケボックスで日頃のストレス発散とたいへん好評でした。



どっちにしようかな？（栄光園）

●**就労ホーム**では、一日外出として、立川にある防災館へ行つて、地震体験や煙体験をしてきました。災害が起きた時に落ち着いて行動できるように様々な体験を通して学ぶことができました。昼

食は新しくできた「ららぽーと立川立飛」でそれぞれ好きな物を食べ、大いに楽しむことのできた一日でした。



防災館に行ってきました！（就労ホーム）

二月は、外出するのにさわやかな季節の日が多く、利用者の皆さんも充実した外出が出来たようです。

各施設とも利用者の方々の希望も多種多様になってきており、それに応えるべく、職員もさまざまな工夫を凝らした企画を今後も考えていきたいと思っています。

（光の家栄光園 就労支援課

主任 浅井 紗和）

利用者の声

二〇一七年の抱負



目標がたくさんあります

光の家新生園 三浦 静花

今年の目標は、卓球大会で一位を取ることです。三位までは取ったことがあるので、ぜひ一位を取りたいです。あと、新生園と栄光園の併用利用ができるようになりたいです。

新生園の訓練では特に作業訓練の紙作業と、手芸作業をしつかり頑張りたいと思っています。



紙作業で牛乳パックを切っています！

楽しく頑張る年に

光の家栄光園 千葉 利彦



どんな仕事にもチャレンジ！

今年も健康に気を付けて、地道に点字製本や印刷など、いろいろな仕事を頑張りたいです。また光バンドも楽しく、続けていきたいと思っています。多くの皆さんに聴いてもらえるように、みんなで頑張りますので、ぜひ応援よろしくお願いします。

七回目の酉年を迎えて

光の家神愛園 長谷川 桂子

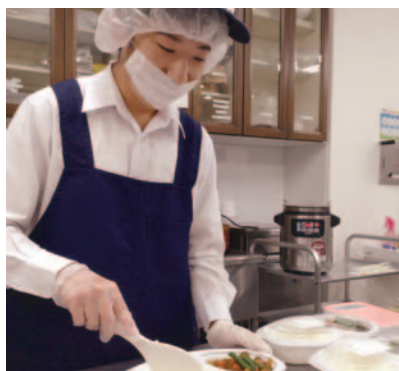
私は今年で七回目の年女になります。秋田県能代出身で、三〇代の時に光の家にお世話になり、もう五〇年近くになります。毎日作業に参加し、コレプの金具付けをしています。民謡も大好きで、毎年日野民謡大会や夕照会の発表に参加しています。今年も舞台に立てるよう練習しています。宜しくお願いします。



自慢の声で「秋田おばこ」を披露！

やりたいことがいっぱい！

光の家就労ホーム 谷合 直紀



お弁当の盛り付けは任せて！

僕がやっている仕事は、ダイレクトメールのラベル貼りやカンのランチの盛り付けや食器洗いです。

今年やってみたいことは、カンのチーズケーキ作りです。それに昼休みのトレーニングを毎回一〇〇回できるように頑張りたいです。パソコンも使えるようになりたいです。

今年一年、仕事に生活に頑張っていきます。よろしくお願いします。

通所就労三年目

光の家障害者グループホーム

関 博也



グループホームの生活は楽しいです！

私は、毎日光の家栄光園の作業に通い、三係で穴開けや箱折り等の仕事を行っています。が、今年はそれぞれの作業の精度を高めていこうと考えています。可能であれば新しい作業にも挑戦していこうと思いますので、先ずは、休まず作業に通い、次のステップを目指したいです。これからも感謝の気持ちを忘れずに、元気に一年間を過ごしていきたいと思います。

数年後のスタートラインへ…

光の家鍼灸マッサージホーム

鈴木 鉄也



お客様の疲れた身体に癒しを！

約八年の間、神愛園で社会復帰への支援を頂き、昨年七月よりマッサージホームで働いております。

これまで受けてきた幾数もの愛の温もりを忘れぬように、心技体ともに、もう一度元から鍛え直して、退化せずに年齢と共に進化できるよう歩んでいきたいと思っています。

点字教室を開催します！



視覚障害者の総合福祉施設としての光の家が、点字教室を開催します。

点字を使用したゲームで楽しく遊びながら点字を覚えましょう。また、基礎的な点字の仕組みやルールを学び文章までを読み書きができるようにして、最後にはパソコンを使用した点字編集を学習し点字プリンターで印刷します！

ご興味のある方は是非、ご参加ください！

(参加費は無料です。)

日時

平成二九年三月四日(土)

一三時三〇分～一六時〇〇分

会場

東京光の家地域交流センター

お問合せ先

東京光の家 地域貢献活動室

電話 〇四二(五八二)三三三〇

メール info@hikarinote.org

寄付者名簿

平成二八年一〇月一六日

～二月二五日

新宿駅西口広場イベントコーナー

出店者一同様

(東京善意銀行様を通して)

金 三三、三七六円(パソコン購入)

浅石 常勝様	米	三〇 kg
西塚 吉典様	ラ・フランス	一〇 kg
阿久津 隆隆様	柿	九五 kg
宇都宮 一美様	みかん	一〇・五 kg
井川 幸雄様	りんご	三・五 kg
船橋 敬様	さつまいも	五 kg
	りんご	一五 kg
土屋 正和様	ラ・フランス	一五 kg
島崎 昭道様	米	三〇 kg
宮田 容子様	米	三〇 kg
柏田 功様	梨	一五 kg
石川 紀子様	りんご	二〇 kg
渡辺 祥子様	米	一六二 kg
石井 みち子様	米	三〇 kg
	りんご	三〇 kg
河村 正様	みかん	二五 kg
	ゆず	二 kg
浅見 玲子様	パーキンスプレーラー	一台
株式会社トール様	箱アイツシュ	四八箱
安藤 美香様	電子ピアノ	一台

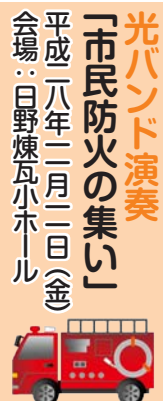
※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。



防火活動に一役担う光バンド

日野消防署が毎年行っている「市民防火の集い」の第一部の表彰式に東京光の家が優良防火対象物認定により消防総監表彰を受けました。

また、第一部の表彰式後の第二部に光バンドの演奏が行われ、多くの方々に感動と勇気を与えることができました。



紙漉きは、こうやって作るんだね！

「ト垣根の垣根の曲がり角」、誰もが口ずさめる童謡『たきび』。この唄の作詞者の異聖歌が日野市旭が丘で後半生を過ごしたことから、毎年この「たきび祭」が開催されています。

東京光の家では、牛乳パックによる紙漉き体験を催しました。地域のお子様から大人まで沢山の人が体験に来てくださいました。



豪華な光の家のお節料理

元旦は、定番の焼き魚の鯛の姿焼き、鰯か鯖の照り焼きの選択食から始まります。三が日はお餅等の選択食もあります。

年末にニシンの仕込みからの手作り昆布巻き等、素材に合わせ味付けした料理を折詰めし、魚は元旦に焼いて配膳します。

こうして、光の家の『選べる楽しい食事』を今年も元旦から味わっていただきます。



くあとがきく

皆様おそろいで幸多き初春をお迎えのことと存じます。

さて今回の社会福祉法一部改正により私ども社会福祉法人制度が歴史的転換を余儀なくされています。

今後、社会福祉法人が様々な地域福祉ニーズに応え、地域福祉になくてはならない存在として地域福祉に貢献していく必要があります。それと同時に従来からの障害特性による専門性を高めていくことも求められています。

このように社会福祉法人を取り巻く環境が厳しくなる中、舵取りが難しくなります。

これから二〇〇年の歴史を刻もうとしている東京光の家は、しっかりと時代の変化に対応していきたいと考えておりますので今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

(常務理事 石渡 健太郎)

発

行 〒一九一〇〇六五

東京都日野市旭が丘一七ー一七

社会福祉法人 東京光の家

電話 〇四二(五八二)二三四〇

FAX 〇四二(五八二)九五六八